



CLUSTERPRO X for Windows

SAP NetWeaver 設定例

リリース 8

日本電気株式会社

2022 年 04 月 08 日

目次:

第 1 章	はじめに	1
1.1	対象読者と目的	2
1.2	本書の構成	3
1.3	本書の表記規則	4
1.4	CLUSTERPRO マニュアル体系（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）	5
1.5	CLUSTERPRO マニュアル体系（内部バージョン 12.1x 以降の場合）	6
1.6	関連資料	7
1.7	本書で用いる用語	8
第 2 章	構成例	9
2.1	SAP NW 環境設定例	10
2.2	CLUSTERPRO の設定	17
2.3	サンプルスクリプト	63
第 3 章	免責・法的通知	89
3.1	免責事項	89
3.2	商標情報	90
第 4 章	改版履歴	91

第1章

はじめに

本書は、『CLUSTERPRO X for Windows SAP NetWeaver システム構築ガイド』に記載されているクラスタシステムの構築と、動作手順の例を説明するものです。

1.1 対象読者と目的

本書は、クラスタシステムに関して、システムを構築する管理者、およびユーザサポートを行うシステムエンジニア、保守員を対象にしています。

本書では、CLUSTERPRO 環境下での動作確認が取れたソフトウェアを紹介しています。ここで紹介するソフトウェアや設定例は、あくまで参考情報として提供するものであり、各ソフトウェアの動作保証をするものではありません。

同梱のスクリプトはフェイルオーバを実現するためのサンプルスクリプトです。

サンプルスクリプトはあらゆる SAP のプロセスを監視対象としておりません。

サンプルスクリプトの内容をご確認の上、使用環境や監視対象に合わせて調整してください。

本書以外の構成のサポートをご希望の場合は、CLUSTERPRO プリセールス窓口: info@clusterpro.jp.nec.com にご相談ください。

1.2 本書の構成

本書は、以下の 2 つのドキュメントで構成されています。

- ・『CLUSTERPRO X for Windows SAP NetWeaver システム構築ガイド』
- ・『CLUSTERPRO X for Windows SAP NetWeaver 設定例』

1.3 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注釈: この表記は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: この表記は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

参考:

この表記は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	コマンド名の前後 画面に表示される語(ダイアログボックス、メニューなど)の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	clpstat -s [-h host_name]
モノスペースフォント	パス名、コマンド ライン、システムからの出力(メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	C:\Program Files\ CLUSTERPRO
太字	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	clpstat -s [-h host_name]



本書の図では、CLUSTERPRO を表すためにこのアイコンを使用します。

1.4 CLUSTERPRO マニュアル体系（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 4 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』 (Reference Guide)

管理者を対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X 統合 WebManager 管理者ガイド』 (Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合 WebManager で管理するシステム管理者、および統合 WebManager の導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、統合 WebManager を使用したクラスタシステム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

1.5 CLUSTERPRO マニュアル体系（内部バージョン 12.1x 以降の場合）

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

すべてのユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール&設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタシステムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』 (Reference Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール&設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』 (Maintenance Guide)

管理者、および CLUSTERPRO を使用したクラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO のメンテナンス関連情報を記載します。

1.6 関連資料

1.6.1 SAP NetWeaver ドキュメント

以下の URL より、SAP NetWeaver が対応しているデータベースおよび OS 種別ごとの Master Guide、Installation Guide 等のダウンロードが可能です。

<https://help.sap.com/viewer/nwguidefinder>

SAP NOTE

- #1680045: Release Note for Software Provisioning Manager 1.0
- #1710950: Inst. SAP Systems Based on NW 7.1 and higher: Windows
- #0066971: Supported SAP GUI platforms
- #1732161: SAP Systems on Windows Server 2012 (R2)
- #0019466: Downloading SAP kernel patches
- #0174911: Determining the hardware key (customer key)
- #0181543: License key for high availability environment
- #0870871: License key installation
- #1031096: Installing Package SAPHOSTAGENT
- #1841837: Support details for NEC EXPRESSCLUSTER Support on SAP NetWeaver Systems
- #2182373: NEC EXPRESSCLUSTER X: Rolling Kernel Switch in HA environments
- #2384179: SAP Systems on Windows Server 2016
- #2464065: Check of automatic maintenance mode for HA solutions
- #2630416: Support for Standalone Enqueue Server 2
- #2711036: Usage of the Standalone Enqueue Server 2 in an HA Environment
- #1693245: SAP HA Script Connector Library
- #2850906: Maintenance mode for NEC EXPRESSCLUSTER X HA Solution

注釈: 本書記載の関連資料および URL は、予告無く変更される可能性があります。

1.7 本書で用いる用語

本書で用いる用語について説明します。

本製品 CLUSTERPRO X for Windows SAP NetWeaver

システム構築ガイド CLUSTERPRO X for Windows SAP NetWeaver システム構築ガイド

設定例 CLUSTERPRO X for Windows SAP NetWeaver 設定例

連携コネクタ 本製品に同梱する SAP と連携するコネクタ

SAP NW SAP NetWeaver の略

ASCS ABAP SAP Central Services の略

ERS Enqueue Replication Server の略

PAS Primary Application Server の略

AAS Additional Application Server の略

DA Diagnostics Agent の略

Exclusive ASCS/ERS インスタンス排他制御用フェイルオーバグループ

ENSA Standalone Enqueue Server の略

ENSA2 Standalone Enqueue Server 2 の略

第 2 章

構成例

- 2.1. *SAP NW* 環境設定例
- 2.2. *CLUSTERPRO* の設定
- 2.3. サンプルスクリプト

2.1 SAP NW 環境設定例

この章で使用する用語を以下に示します。

SID SAP System ID

DASID Diagnostics Agent SAP System ID

SAP_NEC_GlobalAdmin

SAP NW で自動作成されるアカウントです。

例 : SAP_<SID>_GlobalAdmin

SAP_DAA_GlobalAdmin

SAP NW で自動作成されるアカウントです。

例 : SAP_<DASID>_GlobalAdmin

SAP_LocalAdmin SAP NW で自動作成されるアカウントです。

SAP_NEC_LocalAdmin

SAP NW で自動作成されるアカウントです。

例 : SAP_<SID>_LocalAdmin

SAP_DAA_LocalAdmin

SAP NW で自動作成されるアカウントです。

例 : SAP_<DASID>_LocalAdmin

2.1.1 共有ディスク

本書での、各ノードから共有ディスクへの設定例を以下に示します。

ドライブレター (Node#1 / Node#2)	S:
用途	ASCS
接続方法	iSCSI

以下の図は ENSA を利用する場合の構成図です。

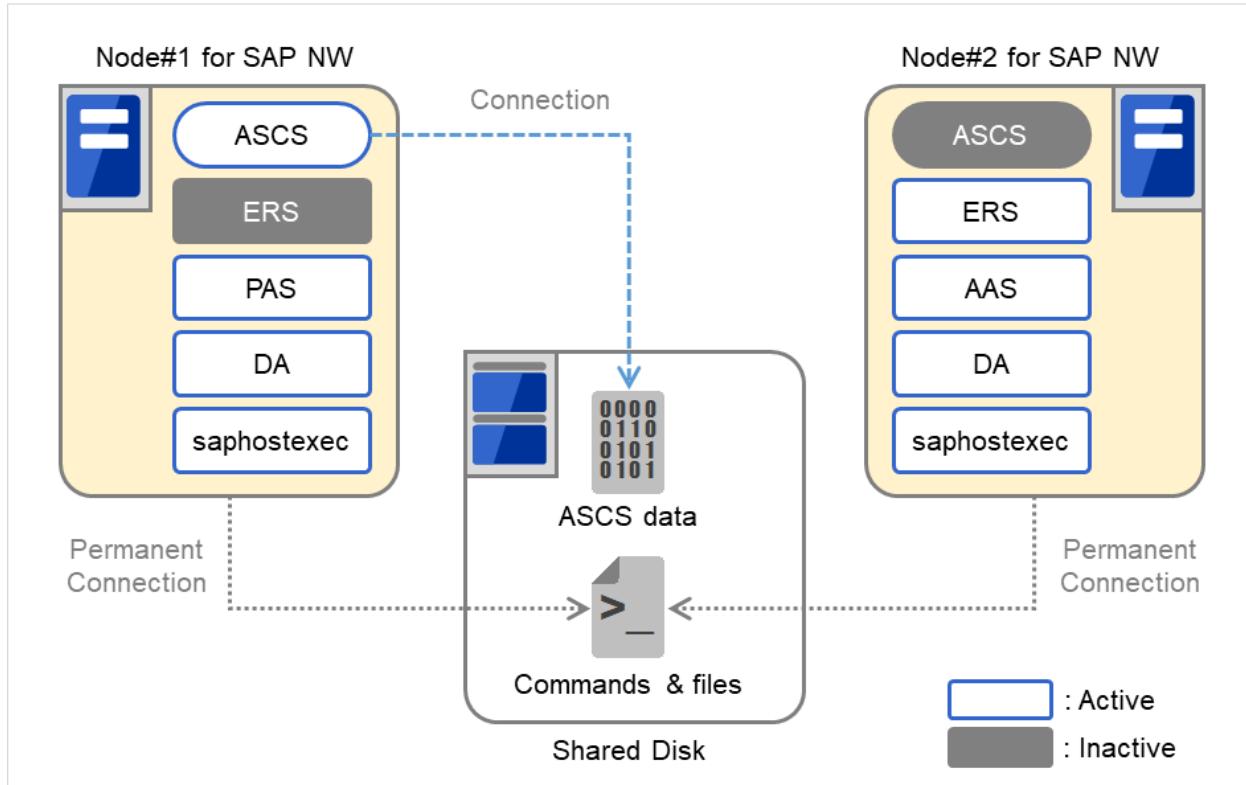


図 2.1 構成図 (ENSA を利用する場合) (1)

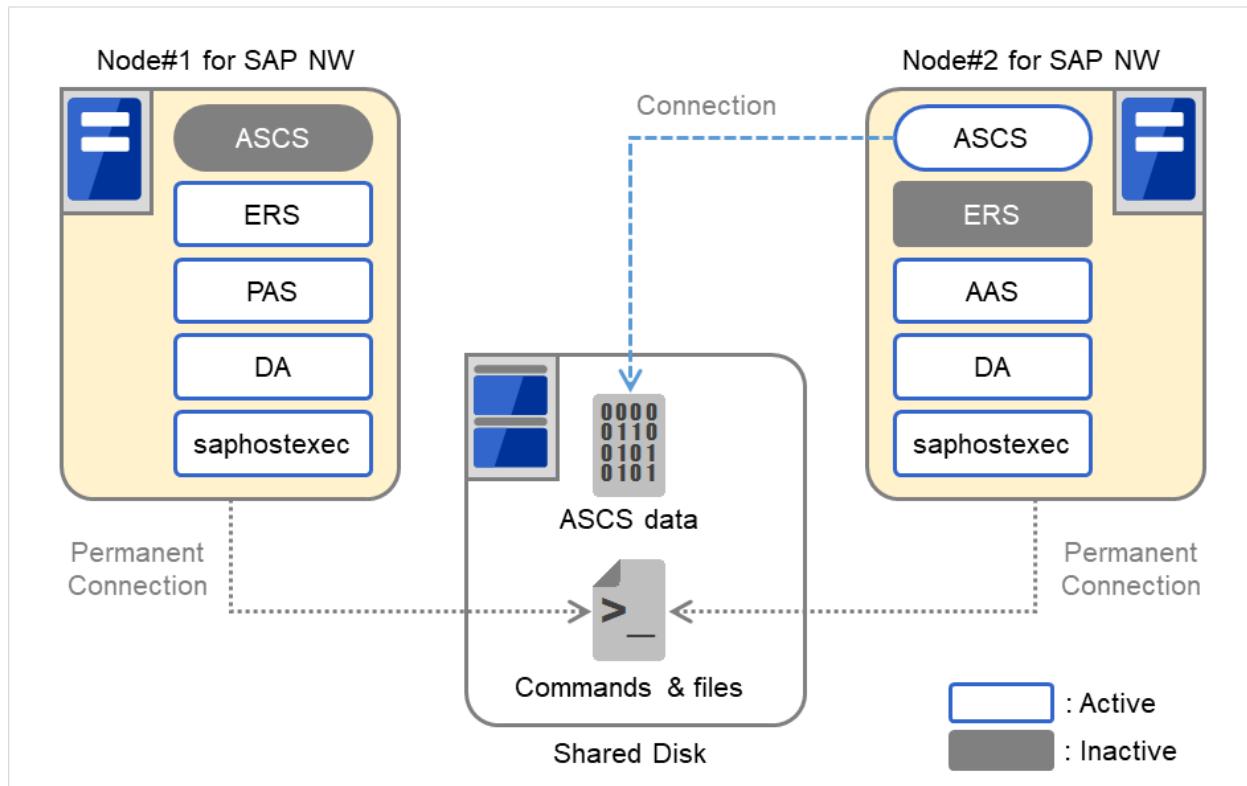


図 2.2 構成図 (ENS A を利用する場合) (2)

2.1.2 フローティング IP

本書での、ホスト名、IP アドレスを以下に示します。

フローティング IP は外部のシステムから活性ノードに接続する際に使用します。

	Node#1	Node#2
ホスト名	<i>sap1</i>	<i>sap2</i>
インタコネクト IP	<i>192.168.10.11/24</i> <i>10.0.0.1/24</i>	<i>192.168.10.12/24</i> <i>10.0.0.2/24</i>
フローティング IP	<i>managesv</i> (WebManager/Cluster WebUI 用)	<i>192.168.10.100/24</i>
	<i>SAPNEC</i>	<i>192.168.10.103/24</i> (ASCS 用)
	<i>ERSSV</i>	<i>192.168.10.104/24</i> (ENS A2 を利用する場合のみ必要)

以下は ENS A を利用する場合の構成例です。

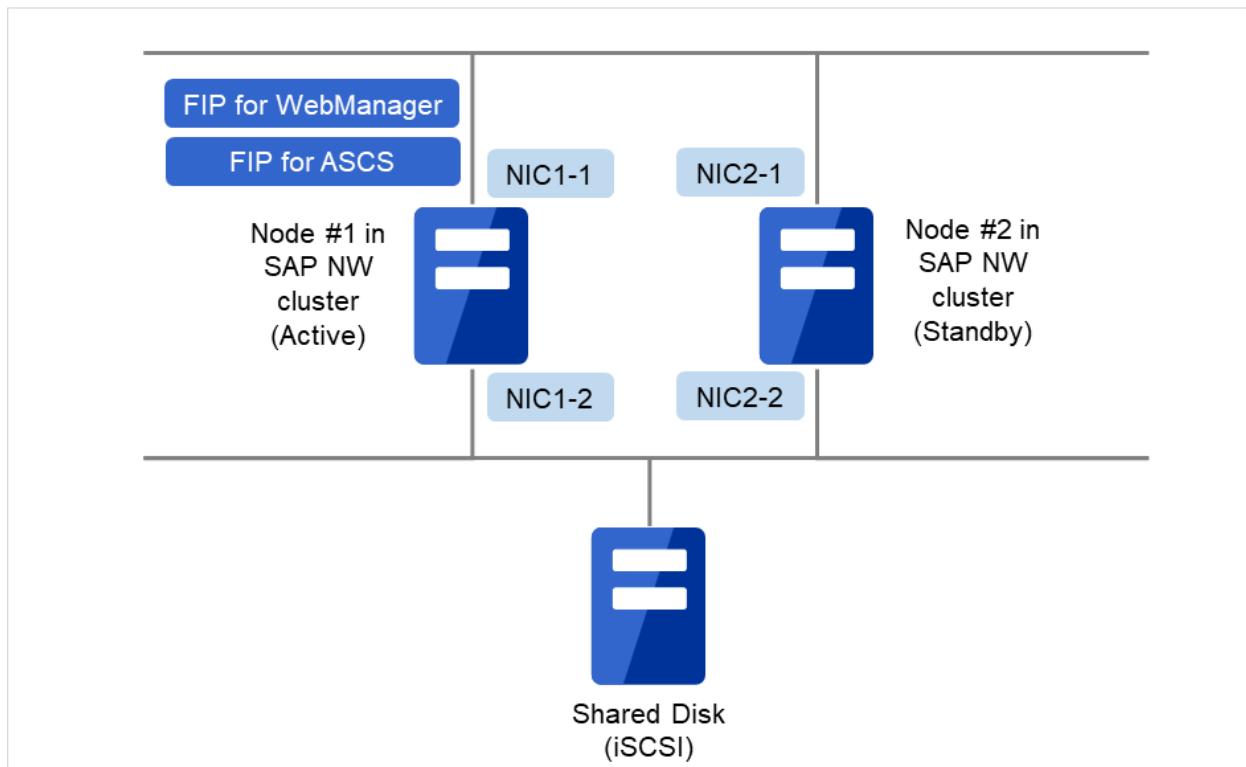


図 2.3 構成例 (ENSA を利用する場合)

WebManager 用フローイング IP (FIP)	192.168.10.100/24
ASCS 用フローイング IP (FIP)	192.168.10.103/24
NIC1-1 (eth0) IP アドレス	192.168.10.11/24
NIC1-2 (eth1) IP アドレス	10.0.0.1/24
NIC2-1 (eth0) IP アドレス	192.168.10.12/24
NIC2-2 (eth1) IP アドレス	10.0.0.2/24

2.1.3 OS の設定例

本書での設定例を以下に示します。(Windows Server 2012)

- hosts ノード追加

```
> %windir%\System32\Drivers\Etc\hosts
```

192.168.10.103 SAPNEC

192.168.10.104 ERSSV # ENSA2 を利用する場合のみ必要

- 共有ディスクドライブレター

Drive Letter	S:
Owned by Cluster Group	ASCS

- ファイル共有

	共有名	パス	アクセス許可
CIFS リソース	sapmnt	S:\usr\sap	アクセス権限：フルコントロール Administrators SAP_LocalAdmin SAP_NEC_GlobalAdmin NTFS パーミッション Administrators SAP_LocalAdmin SAP_NEC_GlobalAdmin
Node#1	saploc	C:\usr\sap	アクセス権限：フルコントロール Administrators (SAP1\Administrators) SAP_LocalAdmin (SAP1\SAP_LocalAdmin) NTFS パーミッション Administrators (SAP1\Administrators) SAP_LocalAdmin (SAP1\SAP_LocalAdmin) SAP_DAA_GlobalAdmin (SAP1\SAP_DAA_GlobalAdmin) SAP_NEC_GlobalAdmin

次のページに続く

表 2.3 – 前のページからの続き

	共有名	パス	アクセス許可
Node#2	saploc	C:\usr\sap	アクセス権限：フルコントロール Administrators (SAP2\Administrators) SAP_LocalAdmin (SAP2\SAP_LocalAdmin) NTFS パーミッション Administrators (SAP2\Administrators) SAP_LocalAdmin (SAP2\SAP_LocalAdmin) SAP_DAA_GlobalAdmin (SAP2\SAP_DAA_GlobalAdmin) SAP_NEC_GlobalAdmin

- 共有ディスク上のフォルダ

パス	アクセス許可
S:\usr\sap\<SID>	NTFS パーミッション SAP_LocalAdmin SAP_NEC_LocalAdmin SAP_NEC_GlobalAdmin
S:\usr\sap\<SID>\SYS\global\security	NTFS パーミッション SAP_NEC_LocalAdmin SAP_NEC_GlobalAdmin

- シンボリックリンク (Node#1 / Node#2)

– 書式

`mklink /d <localdisk>:\usr\sap\<SID>\SYS \\<sapglobalhost>\sapmnt\<SID>\SYS`

* 本書の設定例

```
mklink /d C:\usr\sap\NEC\SYS \\SAPNEC\sapmnt\NEC\SYS
```

- 書式

```
mklink /d <localdisk>:\usr\sap\trans \\<trans_dir_host>\sapmnt\trans
```

* 本書の設定例

```
mklink /d C:\usr\sap\trans \\SAPNEC\sapmnt\trans
```

2.1.4 SAP NW 設定例

本書での SAP NW の「ホスト名」「インスタンス名」「インスタンス番号」などの設定例を、以下に示します。

ホスト名	フローティング IP	説明
managesv	192.168.10.100	CLUSTERPRO Management グループ用
SAPNEC	192.168.10.103	ASCS 用
ERSSV	192.168.10.104	ENSA2 を利用する場合のみ必要

インスタンス	設定パラメータ	設定値
SAP NW	SID	NEC
ASCS	インスタンス番号	10
	インスタンス名	ASCS10
	ホスト名	SAPNEC
ERS1(ENSA を利用する場合)	インスタンス番号	21
	インスタンス名	ERS21
ERS2(ENSA を利用する場合)	インスタンス番号	22
	インスタンス名	ERS22
ERS(ENSA2 を利用する場合)	インスタンス番号	21
	インスタンス名	ERS21
PAS	インスタンス番号	31
	インスタンス名	DVEBMGS31
AAS	インスタンス番号	32
	インスタンス名	D32
DA1	インスタンス番号	97
	インスタンス名	SMDA97
DA2	インスタンス番号	96
	インスタンス名	SMDA96

2.2 CLUSTERPRO の設定

2.2.1 CLUSTERPRO 設定例

本書での CLUSTERPRO の設定値例を以下に示します。

なお、いくつかの設定パラメータについては、ENSA と ENSA2 のどちらを使用するかによって設定値が変化します。

以下の表は、SAP NW のクラスタ環境を作成するための設定値となります。

フェイルオーバグループの設定例

- クラスタ構成

設定パラメータ	設定値
クラスタ名	Cluster
サーバ数	2
フェイルオーバグループ数	ENSA の構成にする場合 : 12 ENSA2 の構成にする場合 : 11

	設定パラメータ	設定値
ハートビートリソース	KLAN ハートビート数	2
Node#1 (マスター サーバ)	サーバ名	sap1
	インタコネクトの IP アドレス (カーネルモード、優先度 1)	192.168.10.11
	インタコネクトの IP アドレス (カーネルモード、優先度 2)	10.0.0.1
Node#2	サーバ名	sap2
	インタコネクトの IP アドレス (カーネルモード、優先度 1)	192.168.10.12

次のページに続く

表 2.8 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	インタコネクトの IP アドレス (カーネルモード、優先度 2)	10.0.0.2
NP 解決	種別	Ping
	Ping ターゲット	192.168.10.10

- 1 個目のグループ (WebManager/Cluster WebUI 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	Management Group
起動サーバ	全てのサーバでフェイルオーバ可能
グループリソース数	1

	設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース	タイプ	フローティング IP リソース
	グループリソース名	Management IP
	IP アドレス	192.168.10.100
	Ping 実行	オン

- 2 個目のグループ (ASCS 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	ASCS-Group
起動サーバ	全てのサーバでフェイルオーバ可能
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	手動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	通常排他
起動待ち合わせ	なし

次のページに続く

表 2.11 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
停止待ち合わせ	<p>ERS1-Group (ENSA 利用の場合) ERS-Group (ENSA2 利用の場合) PAS-Group ERS2-Group (ENSA 利用の場合) AAS-Group</p> <p>クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる</p> <p>サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる</p>
グループリソース数	5

	設定パラメータ	設定値
1つ目のグループリソース深度 0	タイプ	floating ip resource
	依存関係	既定の依存関係に従う
	グループリソース名	fip-ASCS
	活性異常検出時の復旧動作	<p>活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 最高プライオリティサーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)</p>
	非活性異常検出時の復旧動作	<p>非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン</p>
	IP アドレス	192.168.10.103
	Ping 実行	オン

次のページに続く

表 2.12 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
2つ目のグループリソース深度 1	タイプ	ディスクリソース
	グループリソース名	sd-ASCS
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 最高プライオリティサーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	ドライブレター	S:
	実行可能サーバ	sap1 sap2
3つ目のグループリソース深度 1	タイプ	CIFS リソース
	グループリソース名	cifs-ASCS
	依存関係	sd-ASCS
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 最高プライオリティサーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)

次のページに続く

表 2.12 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	ドライブ共有設定の自動保存を行う	オフ
	共有名	sapmnt
	フォルダ	S:\usr\sap
	コメント	SAP がシステム<SID>のシステム固有情報にアクセスする際に使用する
	キャッシングを可能にする	オン
	キャッシング設定	手動キャッシング
	ユーザ数制限	無制限
	アクセス許可	Administrators フルコントロール SAP_NECK_GlobalAdmin フルコントロール SAP_LocalAdmin フルコントロール
4つ目のグループリソース深度 2	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ASCS-SAP-instance_NECK_10
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 最高プライオリティサーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)

次のページに続く

表 2.12 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat ユーザスクリプト : ascs-post-handler.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
5 つ目のグループリソース深度 2	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ASCS-SAP-service_NE_10
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 最高プライオリティサーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)

次のページに続く

表 2.12 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
[開始] タイプ	同期
[開始] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
[終了] タイプ	同期
[終了] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 3 個目のグループ (ENSA 利用時の ERS1 用) (ENSA2 利用時は作成不要)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	ERS1-Group
起動サーバ	sap1
グループ起動属性	手動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	ASCS-Group

次のページに続く

表 2.13 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
停止待ち合わせ	<p>-</p> <p>クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる</p>
グループリソース数	2

	設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ERS1-SAP-instance_NECK_21
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	<p>活性リトライしきい値 0</p> <p>フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ</p> <p>フェイルオーバしきい値 サーバ数</p> <p>何もしない (次のリソースを活性しない)</p>
	非活性異常検出時の復旧動作	<p>非活性リトライしきい値 0</p> <p>クラスタサービス停止と OS シャットダウン</p>
	詳細	<p>スクリプト一覧</p> <p>開始スクリプト : start.bat</p> <p>停止スクリプト : stop.bat</p> <p>ユーザスクリプト : setting.bat</p> <p>ユーザスクリプト exclusive-control.bat</p>
	[開始] タイプ	同期

次のページに続く

表 2.14 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
2つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ERS1-SAP-service_NECK_21
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒

次のページに続く

表 2.14 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
正常な戻り値	0
デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 3 個目のグループ (ENSA2 利用時の ERS 用) (ENSA 利用時は作成不要)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	ERS-Group
起動サーバ	sap2 sap1
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	ASCS-Group
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	4

設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース深度	タイプ
0	フローティング IP リソース
	依存関係
	既定の依存関係に従う
	グループリソース名
	ERSSV

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
2つ目のグループリソース深度 1	IP アドレス	192.168.10.104
	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-check-ENSA2
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 1 グループ停止
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat
3つ目のグループリソース深度 2	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ERS-SAP-instance_NE_21
	依存関係	exec-check-ENSA2
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 1 何もしない (次のリソースを活 性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	詳細	<p>スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat</p> <p>スクリプトの設定方法は「2.3.1. サンプルスクリプトの使用方法」を参照してください。</p>
4 つ目のグループリソース深度 2	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ERS-SAP-service_NE_21
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	<p>活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 1 何もない（次のリソースを活性しない）</p>
	非活性異常検出時の復旧動作	<p>非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン</p>
	詳細	<p>スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat</p> <p>スクリプトの設定方法は「2.3.1. サンプルスクリプトの使用方法」を参照してください。</p>

- 4 個目のグループ (PAS 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	PAS-Group
起動サーバ	sap1
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	ASCS-Group
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	2

	設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-PAS-SAP-instance_NECK_31
	依存関係	既定の依存関係に従う

次のページに続く

表 2.18 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
2 つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-PAS-SAP-service_NE_31
	依存関係	既定の依存関係に従う

次のページに続く

表 2.18 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 5 個目のグループ (ENSA 利用時の ERS2 用) (ENSA2 利用時は作成不要)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	ERS2-Group
起動サーバ	sap2
グループ起動属性	手動起動

次のページに続く

表 2.19 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	ASCS-Group
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	2

	設定パラメータ	設定値
1つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ERS2-SAP-instance_NECK_22
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン

次のページに続く

表 2.20 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	詳細	<p>スクリプト一覧</p> <p>開始スクリプト : start.bat</p> <p>停止スクリプト : stop.bat</p> <p>ユーザスクリプト : setting.bat</p> <p>ユーザスクリプト : exclusive-control.bat</p>
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
2つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-ERS2-SAP-service_NE_22
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	<p>活性リトライしきい値 0</p> <p>フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ</p> <p>フェイルオーバしきい値 サバ数</p> <p>何もしない (次のリソースを活性しない)</p>
	非活性異常検出時の復旧動作	<p>非活性リトライしきい値 0</p> <p>クラスタサービス停止と OS シャットダウン</p>

次のページに続く

表 2.20 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 6 個目のグループ (AAS 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	AAS-Group
起動サーバ	sap2
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	ASCS-Group

次のページに続く

表 2.21 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
停止待ち合わせ	<p>-</p> <p>クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる</p> <p>サーバ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる</p>
グループリソース数	2

	設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-AAS-SAP-instance_NECK_32
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	<p>活性リトライしきい値 0</p> <p>フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ</p> <p>フェイルオーバしきい値 サーバ数</p> <p>何もしない (次のリソースを活性しない)</p>
	非活性異常検出時の復旧動作	<p>非活性リトライしきい値 0</p> <p>クラスタサービス停止と OS シャットダウン</p>
	詳細	<p>スクリプト一覧</p> <p>開始スクリプト : start.bat</p> <p>停止スクリプト : stop.bat</p> <p>ユーザスクリプト : setting.bat</p>

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
2つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-AAS-SAP-service_NE_32
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
[終了] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 7 個目のグループ (DA1 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	DA1-Group
起動サーバ	sap1
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	-
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	2

設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース深度 0 タイプ	スクリプトリソース
グループリソース名	script-DA1-instance_DAA_97
依存関係	既定の依存関係に従う

次のページに続く

表 2.24 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
2 つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-DA1-service_DAA_97
	依存関係	既定の依存関係に従う

次のページに続く

表 2.24 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない（次のリソースを活性しない）
非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
[開始] タイプ	同期
[開始] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
[終了] タイプ	同期
[終了] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 8 個目のグループ (DA2 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	DA2-Group
起動サーバ	sap2
グループ起動属性	自動起動

次のページに続く

表 2.25 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	-
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	2

	設定パラメータ	設定値
1つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-DA2-instance_DAA_96
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバ先サーバ 安定動作サーバ フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン

次のページに続く

表 2.26 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ
2つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-DA2-service_DAA_96
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期

次のページに続く

表 2.26 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 9 個目のグループ (hostexec1 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	hostexec1-Group
起動サーバ	sap1
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	-
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	1

	設定パラメータ	設定値
1 つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-hostexec1
	依存関係	既定の依存関係に従う

次のページに続く

表 2.28 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない（次のリソースを活性しない）
非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン
詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
[開始] タイプ	同期
[開始] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
[終了] タイプ	同期
[終了] タイムアウト	1800 秒
正常な戻り値	0
デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 10 個目のグループ (hostexec2 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	hostexec2-Group
起動サーバ	sap2
グループ起動属性	自動起動

次のページに続く

表 2.29 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	排他なし
起動待ち合わせ	-
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	1

	設定パラメータ	設定値
1つ目のグループリソース深度 0	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script-hostexec2
	依存関係	既定の依存関係に従う
	活性異常検出時の復旧動作	活性リトライしきい値 0 フェイルオーバしきい値 サーバ数 何もしない (次のリソースを活性しない)
	非活性異常検出時の復旧動作	非活性リトライしきい値 0 クラスタサービス停止と OS シャットダウン

次のページに続く

表 2.30 – 前のページからの続き

	設定パラメータ	設定値
	詳細	スクリプト一覧 開始スクリプト : start.bat 停止スクリプト : stop.bat ユーザスクリプト : setting.bat
	[開始] タイプ	同期
	[開始] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	[終了] タイプ	同期
	[終了] タイムアウト	1800 秒
	正常な戻り値	0
	デスクトップとの対話を許可する	オフ

- 11 個目のグループ (Exclusive1 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	Exclusive-Group1
起動サーバ	sap1
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	通常排他
起動待ち合わせ	-
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	0

- 12 個目のグループ (Exclusive2 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	フェイルオーバ
グループ名	Exclusive-Group2
起動サーバ	sap2
グループ起動属性	自動起動
フェイルオーバ属性	自動フェイルオーバ 起動可能なサーバ設定に従う
フェイルバック属性	自動フェイルバック
フェイルオーバ排他属性	通常排他
起動待ち合わせ	-
停止待ち合わせ	- クラスタ停止時に対象グループの停止を待ち合わせる
グループリソース数	0

モニタリソースの設定例

- 1 個目のモニタリソース (フローディング IP リソース用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	fipw (フローディング IP 監視)
モニタリソース名	fipw1
インターバル	60 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	0 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : Management IP
NIC Link Up/Down を監視する	オン
回復動作	カスタム設定
回復対象	Management IP

次のページに続く

表 2.33 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最終動作	何もしない

- 2 個目のモニタリソース（フローティング IP リソース用）

設定パラメータ	設定値
タイプ	fipw (フローティング IP 監視)
モニタリソース名	fipw2
インターバル	60 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	0 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : fip-ASCS
NIC Link Up/Down を監視する	オン
回復動作	カスタム設定
回復対象	fip-ASCS
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最終動作	何もしない

- 3 個目のモニタリソース（ディスクリソース用）

設定パラメータ	設定値
タイプ	sdw (ディスク TUR 監視リソース)
モニタリソース名	sdw1
インターバル	30 秒
タイムアウト	300 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	0 秒
監視タイミング	常時
対象リソース	sd-ASCS
回復動作	カスタム設定

次のページに続く

表 2.35 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
回復対象	sd-ASCS
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	0 回
フェイルオーバ先サーバ	最高プライオリティサーバ
最大フェイルオーバ回数	サーバ数に合わせる
最終動作	何もしない

- 4 個目のモニタリソース (CIFS リソース用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	cifsw (CIFS 監視リソース)
モニタリソース名	cifsw1
インターバル	60 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	0 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : cifs-ASCS
アクセスチェック	しない
対象リソース	cifs-ASCS
回復動作	カスタム設定
回復対象	cifs-ASCS
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
フェイルオーバ先サーバ	最高プライオリティサーバ
最大フェイルオーバ回数	サーバ数に合わせる
最終動作	何もしない

- 5 個目のモニタリソース (ASCS instance ENQ 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-ASCS-instance-ENQ
インターバル	30 秒

次のページに続く

表 2.37 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース： script-ASCS-SAP-instance_NECK_10
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-ASCS-SAP-instance_NECK_10
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	0 回
フェイルオーバ先サーバ	最高プライオリティサーバ
最大フェイルオーバ回数	サーバ数に合わせる
最終動作	クラスタサービス停止と OS シャットダウン

- 6 個目のモニタリソース (ASCS instance MSG 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-ASCS-instance-MSG
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース： script-ASCS-SAP-instance_NECK_10
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0

次のページに続く

表 2.38 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-ASCS-SAP-instance_NEC_10
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	0 回
フェイルオーバ先サーバ	最高プライオリティサーバ
最大フェイルオーバ回数	サーバ数に合わせる
最終動作	何もしない

- 7 個目のモニタリソース (ASCS service 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-ASCS-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-ASCS-SAP-service_NEC_10
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-ASCS-SAP-service_NEC_10
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	1 回
最終動作	何もしない

- 8 個目のモニタリソース (ENSA 利用時の ERS1 instance 用、または ENSA2 利用時の ERS instance 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	ENSA の構成にする場合 : genw-ERS1-instance

次のページに続く

表 2.40 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
	ENSA2 の構成にする場合 : genw-ERS-instance
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	ENSA の構成にする場合 : 活性時, 対象リソース : script-ERS1-SAP-instance_NEC_21
	ENSA2 の構成にする場合 : 活性時, 対象リソース : script-ERS-SAP-instance_NEC_21
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	ENSA の構成にする場合 : script-ERS1-SAP-instance_NEC_21
	ENSA2 の構成にする場合 : script-ERS-SAP-instance_NEC_21
回復スクリプト実行回数	ENSA の構成にする場合 : 1 回
	ENSA2 の構成にする場合 : 0 回
最大再活性回数	ENSA の構成にする場合 : 0 回
	ENSA2 の構成にする場合 : 3 回
最大フェイルオーバ回数	ENSA の構成にする場合 : 0 回
	ENSA2 の構成にする場合 : 1 回
最終動作前にスクリプトを実行する	オン
最終動作	何もしない
この製品で作成したスクリプト [回復スクリプト]	preaction.bat
タイムアウト [回復スクリプト]	600 秒

- 9 個目のモニタリソース (ENSA 利用時の ERS1 service 用、または ENSA2 利用時の ERS service 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	ENSA の構成にする場合 : genw-ERS1-service

次のページに続く

表 2.41 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
	ENSA2 の構成にする場合 : genw-ERS-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	ENSA の構成にする場合 : 活性時, 対象リソース : script-ERS1-SAP-service_NE_21 ENSA2 の構成にする場合 : 活性時, 対象リソース : script-ERS-SAP-service_NE_21
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	ENSA の構成にする場合 : script-ERS1-SAP-service_NE_21 ENSA2 の構成にする場合 : script-ERS-SAP-service_NE_21
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	ENSA の構成にする場合 : 0 回 ENSA2 の構成にする場合 : 1 回
最終動作	何もしない

- 10 個目のモニタリソース (ENSA 利用時の ERS2 instance 用) (ENSA2 利用時は作成不要)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-ERS2-instance
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-ERS2-SAP-instance_NE_22
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0

次のページに続く

表 2.42 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-ERS2-SAP-instance_NECK_22
回復スクリプト実行回数	1 回
最大再活性回数	0 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作前にスクリプトを実行する	オン
最終動作	何もしない
この製品で作成したスクリプト [回復スクリプト]	preaction.bat
タイムアウト [回復スクリプト]	600 秒

- 11 個目のモニタリソース (ENSA 利用時の ERS2 service 用) (ENSA2 利用時は作成不要)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-ERS2-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-ERS2-SAP-service_NECK_22
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-ERS2-SAP-service_NECK_22
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 12 個目のモニタリソース (PAS instance-DISP 用)

タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-PAS-instance-DISP
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-PAS-SAP-instance_NEC_31
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-PAS-SAP-instance_NEC_31
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 13 個目のモニタリソース (PAS instance-IGS 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-PAS-instance-IGS
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-PAS-SAP-instance_NEC_31
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-PAS-SAP-instance_NEC_31

次のページに続く

表 2.45 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 14 個目のモニタリソース (PAS service 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-PAS-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-PAS-SAP-service_NE_31
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-PAS-SAP-service_NE_31
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 15 個目のモニタリソース (AAS instance-DISP 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-AAS-instance-DISP
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回

次のページに続く

表 2.47 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-AAS-SAP-instance_NEC_32
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-AAS-SAP-instance_NEC_32
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 16 個目のモニタリソース (AAS instance-IGS 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-AAS-instance-IGS
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-AAS-SAP-instance_NEC_32
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-AAS-SAP-instance_NEC_32
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回

次のページに続く

表 2.48 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
最終動作	何もしない

- 17 個目のモニタリソース (AAS service 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-AAS-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-AAS-SAP-service_NE_32
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-AAS-SAP-service_NE_32
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 18 個目のモニタリソース (DA1 instance 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-DA1-instance
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒

次のページに続く

表 2.50 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-DA1-instance_DAA_97
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-DA1-instance_DAA_97
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 19 個目のモニタリソース (DA1 service 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-DA1-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	60 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-DA1-service_DAA_97
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-DA1-service_DAA_97
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 20 個目のモニタリソース (DA2 instance 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-DA2-instance
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	2 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-DA2-instance_DAA_96
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-DA2-instance_DAA_96
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 21 個目のモニタリソース (DA2 service 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-DA2-service
インターバル	15 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-DA2-service_DAA_96
この製品で作成したスクリプト	genw.bat

次のページに続く

表 2.53 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-DA2-service_DAA_96
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 22 個目のモニタリソース (hostexec1 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-HostExec1
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-HostExec1
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-HostExec1
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 23 個目のモニタリソース (hostexec2 用)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視

次のページに続く

表 2.55 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
モニタリソース名	genw-HostExec2
インターバル	30 秒
タイムアウト	120 秒
リトライ回数	1 回
監視開始待ち時間	30 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-HostExec2
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0
回復動作	カスタム設定
回復対象	script-HostExec2
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	3 回
最大フェイルオーバ回数	0 回
最終動作	何もしない

- 24 個目のモニタリソース (ENSA2 を使用する場合のみ必要)

設定パラメータ	設定値
タイプ	カスタム監視
モニタリソース名	genw-check-ENSA2
インターバル	30 秒
タイムアウト	30 秒
リトライ回数	0 回
監視開始待ち時間	5 秒
監視タイミング	活性時 対象リソース : script-ASCS-SAP-instance_NECK_10
この製品で作成したスクリプト	genw.bat
監視タイプ	同期
正常な戻り値	0

次のページに続く

表 2.56 – 前のページからの続き

設定パラメータ	設定値
回復動作	カスタム設定
回復対象	ERS-Group
回復スクリプト実行回数	0 回
最大再活性回数	0 回
最大フェイルオーバ回数	1 回 (ノード数 - 1)
最終動作	グループ停止

2.3 サンプルスクリプト

この章で使用する用語を以下に示します。

SID SAP System ID

DASID Diagnostics Agent SAP System ID

INAME インスタンス名

start.bat スクリプトリソース開始用のサンプルスクリプト

stop.bat スクリプトリソース停止用のサンプルスクリプト

setting.bat start.bat / stop.bat の設定スクリプト

ascs-post-handler.bat ASCS instance のスクリプトリソース用のユーザスクリプト

exclusive-control.bat ERS instance のスクリプトリソース用のユーザスクリプト

genw.bat カスタム監視リソースのサンプルスクリプト

ers-mon-preaction.bat ERS instance のカスタム監視リソース用の回復スクリプト

ユーザスクリプト ascs-post-handler.bat、exclusive-control.bat および回復スクリプト ers-mon-preaction.bat は、CLUSTERPRO で ASCS/ERS インスタンスの排他制御を行うためのサンプルスクリプトです。

ASCS/ERS インスタンスの排他制御については、『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスおよび ERS インスタンスの排他制御のイメージ」を参照してください。

連携コネクタとサンプルスクリプトは、インストールメディアの以下に格納しています。

```
<media>:\Windows\<Version of CLUSTERPRO>\common\tools\x64\clp_shi_connector.  
→zip
```

zip ファイルを任意のフォルダに解凍して下さい。zip ファイルのファイル構成は『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「連携コネクタのインストール」を参照してください。

各構成において必要なサンプルスクリプトのファイルは以下のとおりです。

リソース／モニタ	フォルダ名	ファイル名	ENSA	ENSA2
スクリプトリソース	SAP-ASCS-instance	ascs_post_handler.bat	✓	
		setting.bat	✓	✓
		start.bat	✓	✓

次のページに続く

表 2.57 – 前のページからの続き

リソース／モニタ	フォルダ名	ファイル名	ENSA	ENSA2
		stop.bat	✓	✓
	SAP-ERS-instance	exclusive_control.bat	✓	
		setting.bat	✓	✓
		start.bat	✓	✓
		stop.bat	✓	✓
		check_ensa2.bat		✓
	SAP-HostExec	setting.bat	✓	✓
		start.bat	✓	✓
		stop.bat	✓	✓
	SAP-Instance	setting.bat	✓	✓
		start.bat	✓	✓
		stop.bat	✓	✓
	SAP-Service	setting.bat	✓	✓
		start.bat	✓	✓
		stop.bat	✓	✓
カスタム監視	-	ers_mon_preaction.bat	✓	
	-	genw_instance.bat	✓	✓
	-	genw_service.bat	✓	✓
	-	genw_HostExec.bat	✓	✓
	-	check_ensa2.bat		✓

2.3.1 スクリプトリソース

メディアに同梱されている以下のサンプルスクリプトをスクリプトリソースに設定します。

サンプルスクリプトを以下に示します。

フォルダ名	ファイル名	用途
SAP-ASCS-instance	asc5-post-handler.bat	ASCS/ERS 排他制御用
	setting.bat	スクリプト設定ファイル
	start.bat	ASCS インスタンス開始用
	stop.bat	ASCS インスタンス停止用
SAP-ERS-instance	exclusive-control.bat	ASCS/ERS 排他制御用
	setting.bat	スクリプト設定ファイル
	start.bat	ERS インスタンス開始用
	stop.bat	ERS インスタンス停止用

次のページに続く

表 2.58 – 前のページからの続き

フォルダ名	ファイル名	用途
	check_ensa2.bat	ENSA2 を使用する場合の ASCS/ERS 排他制御用
SAP-HostExec	setting.bat	スクリプト設定ファイル
	start.bat	SapHostExec 開始用
	stop.bat	SapHostExec 停止用
SAP-Instance	setting.bat	スクリプト設定ファイル
	start.bat	インスタンス開始用
	stop.bat	インスタンス停止用
SAP-Service	setting.bat	スクリプト設定ファイル
	start.bat	インスタンスサービス開始用
	stop.bat	インスタンスサービス停止用

SAP-Instance フォルダのスクリプトは PAS インスタンス、 AAS インスタンス、 DA インスタンス監視用のサンプルスクリプトです。

SAP-Service フォルダのスクリプトは全ての SAP インスタンスサービス監視用のサンプルスクリプトです。

WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) でスクリプトの追加・置換機能を利用して、各サンプルスクリプトをスクリプトリソースに適用します。

詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

『リファレンスガイド』

「スクリプトリソースを理解する」

各バージョンにおける変更点は以下のとおりです。

フォルダ名	ファイル名	CLUSTERPRO 内部バージョン 11.3x/12.0.x	CLUSTERPRO 内部バージョン 12.1x 以降
SAP-ASCS-instance	asc5-post-handler.bat	<p>SAP NetWeaver のアプリケーションサーバとしての機能に影響を与えないため、以下の場合でも正常終了としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ASCS インスタンス起動後、別ノード上の ERS インスタンスを起動すべきところで、起動可能な ERS インスタンスが見つからなかった場合や何らかの理由で起動に失敗した場合。 	正常終了しますが、アラートにエラーメッセージを出力します。
SAP-ERS-instance	exclusive-control.bat	<p>SAP NetWeaver のアプリケーションサーバとしての機能に影響を与えないため、以下の場合でも正常終了としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ERS インスタンスに対応するスクリプトリソースの起動/停止後、同ノード上の排他制御用フェイルオーバグループである Exclusive-Group を停止/起動すべきところで、Exclusive-Group の停止/起動が何らかの理由で失敗した場合。 	正常終了しますが、アラートにエラーメッセージを出力します。
SAP-ERS-instance	check_ensa2.bat	-	ENSA2 を使用する場合に使用します。ERS インスタンスの起動前に同一ノード上で ASCS 用フェイルオーバグループが起動しているか確認し、起動している場合は活性失敗とします。

次のページに続く

表 2.59 – 前のページからの続き

フォルダ名	ファイル名	CLUSTERPRO 内部バージョン 11.3x/12.0.x	CLUSTERPRO 内部バージョン 12.1x 以降
SAP-HostExec	start.bat	<p>SAP NetWeaver のアプリケーションサーバとしての機能に影響を与えないため、以下の場合でも正常終了としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - SAP Host Agent が何らかの理由で起動に失敗した場合。 hostexec のプロセスの異常終了を saphostexec コマンドの返却値で判定します。 	<p>左記の場合のサンプルスクリプトの終了値を clp_shi_connector.conf の STRICT_RETVAL パラメータで指定します。『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「設定項目」も参照してください。</p> <p>hostexec のプロセスの異常終了を saphostexec コマンドの出力結果で判定します。検出精度が向上しています。</p>
SAP-HostExec	stop.bat	<p>SAP NW のアプリケーションサーバとしての機能に影響を与えないため、以下の場合でも正常終了としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - SAP Host Agent が何らかの理由で停止に失敗した場合。 	<p>左記の場合のサンプルスクリプトの終了値を clp_shi_connector.conf の STRICT_RETVAL パラメータで指定します。『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「設定項目」も参照してください。</p>
SAP-Service	start.bat	AWS 環境において CIFS リソースにより共有フォルダを公開している場合、フェイルオーバ先のノードで ASCS サービスの起動が失敗する場合があります。	ASCS インスタンスサービス起動前に共有フォルダが参照可能になるまで待ち合せます（最大 setting.bat 中の「TIMEOUT」パラメータ秒）。
SAP-Service	stop.bat	インスタンスサービスの停止完了を待ち合せません。	インスタンスサービスの停止完了を待ち合せます。

サンプルスクリプトの使用方法

- フェイルオーバグループ: ASCS-Group

- スクリプトリソース: script-ASCS-SAP-service_NECA_10

setting.bat の変数 「INSTANCE_RESOURCE_NAME」 を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS リソースの設定」で設定したリソース名に修正してください。

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS のインスタンス名に修正してください。

「PATH」について、本書は、S ドライブに設定していますが、構成に応じたドライブレターを設定してください。

「TIMEOUT」を、ASCS インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間(秒)に修正します。

「TIMEOUT」はスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理(例. スクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理)で使用する時間です。

そのため、スクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値(秒)ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」を ASCS インスタンスのホスト名に修正してください。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-ASCS-SAP-instance_NECA_10
set SID=NECA
set INAME=ASCS10
set PATH=%PATH%; S:\usr\sap\%SID%\%INAME%\exe
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=SAPNECA
```

注釈: ASCS インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) のアラートを参照することにより確認可能です。

- フェイルオーバグループ: PAS-Group

- スクリプトリソース : script-PAS-SAP-instance_NE_31

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した PAS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=DVEBMGS31
```

- スクリプトリソース : script-PAS-SAP-service_NE_31

setting.bat の変数「INSTANCE_RESOURCE_NAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS リソースの設定」で設定したリソース名に修正してください。

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した PAS のインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」を、PAS インスタンス用グルーブリソースの起動・停止に必要な時間(秒)に修正します。

「TIMEOUT」はスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理(例. スクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理)で使用する時間です。

そのため、スクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせことになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値(秒)ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-PAS-SAP-instance_NE_31
set SID=NEC
set INAME=DVEBMGS31
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: PAS インスタンス用グルーブリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グルーブリソースの起動・停止を実行し、WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) のアラートを参照することにより

確認可能です。

- フェイルオーバグループ : AAS-Group

- スクリプトリソース : script-AAS-SAP-instance_NECK_32

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した AAS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=D32
```

- スクリプトリソース : script-AAS-SAP-service_NECK_32

setting.bat の変数「INSTANCE_RESOURCE_NAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS リソースの設定」で設定したリソース名に修正してください。

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した AAS のインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」を、AAS インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間(秒)に修正します。

「TIMEOUT」はスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理(例. スクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理)で使用する時間です。

そのため、スクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値(秒)ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-AAS-SAP-instance_NECK_32
set SID=NEC
set INAME=D32
```

```
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: AAS インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) のアラートを参照することにより確認可能です。

- フェイルオーバグループ : DA1-Group

- スクリプトリソース : script-DA1-instance_NEC_97

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した DA1 のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=DAA
set INAME=SMDA97
```

- スクリプトリソース : script-DA1-service_NEC_97

setting.bat の変数「INSTANCE_RESOURCE_NAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA1 (Node#1) リソースの設定」で設定したリソース名に修正してください。

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定したインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」を、DA1 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間 (秒) に修正します。

「TIMEOUT」はスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理 (例. スクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理) で使用する時間です。

そのため、スクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値 (秒) ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-DA1-instance_DAA_97
set SID=DAA
set INAME=SMDA97
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: DA1 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）や Cluster WebUI（内部バージョン 12.1x 以降の場合）のアラートを参照することにより確認可能です。

- フェイルオーバグループ : DA2-Group

- スクリプトリソース : script-DA2-instance_NEC_96

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。
 「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した DA2 のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=DAA
set INAME=SMDA96
```

- スクリプトリソース : script-DA2-service_NEC_96

setting.bat の変数「INSTANCE_RESOURCE_NAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA2 (Node#2) リソースの設定」で設定したリソース名に修正してください。
 「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。
 「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定したインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」を、DA2 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間(秒)に修正します。

「TIMEOUT」はスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理(例. スクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理)で使用する時間です。

そのため、スクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。
「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値(秒)ごとに起動・停止したかを確認します。
「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-DA2-instance_DAA_96
set SID=DAA
set INAME=SMDA96
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: DA2 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) のアラートを参照することにより確認可能です。

- フェイルオーバグループ : hostexec1-Group

- スクリプトリソース : script-hostexec1

setting.bat の編集は必要ありません。既定のサービス名は、「SAPHostExec」です。

- フェイルオーバグループ : hostexec2-Group

- スクリプトリソース : script-hostexec2

上記、script-hostexec1 と同様の設定をします。

サンプルスクリプトの使用方法 (ENSA を利用する場合のみ)

- フェイルオーバグループ : ASCS-Group

- スクリプトリソース : script-ASCS-SAP-instance_NECK_10

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 インスタンス、ERS2 インスタンスの INO を並べたものに修正してください。区切り文字は半角空白としてください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set SAP_ERS_INO=21 22
set INAME=ASCS10
```

注釈: ERS インスタンス制御用フェイルオーバグループが全て停止している状態で ASCS インスタンスの手動起動または手動フェイルオーバを行うと、ERS インスタンス制御用フェイルオーバグループが自動的に起動します。ERS インスタンス制御用フェイルオーバグループの自動起動を抑制するには、ASCS インスタンス用スクリプト設定ファイル (setting.bat) の「ENABLED」の値を 0 に変更し、WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) から設定を反映した後に、ASCS インスタンスの手動起動や手動フェイルオーバを実施してください。

- フェイルオーバグループ : ERS1-Group

- スクリプトリソース : script-ERS1-SAP-instance_NECK_21

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 インスタンス、ERS2 インスタンスの INO を並べたものに修正してください。区切り文字は半角空白としてください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 のインスタンス名に修正してください。

「EXCLUSIVE_GROUP」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「フェイルオーバグループの作成」で設定した、排他制御用フェイルオーバグループで共通のフェイルオーバグループ名に修正して下さい。

「APS」を同じノードで実行されている AS のインスタンス番号に修正してください。値が適切でない場合、ASCS-Group のフェイルオーバ後に sapcontrol -function GetSystemInstanceList の結果が不正になる可能性があります。

本書での例

```
set SID=NEC
set SAP_ERS_INO=21 22
set INAME=ERS21
set EXCLUSIVE_GROUP=Exclusive-Group
```

```
set APS=31
```

- スクリプトリソース : script-ERS1-SAP-service_NECK_21

setting.bat の変数 「INSTANCE_RESOURCE_NAME」 を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS1 (Node#1) リソースの設定 (ENSA を利用する場合のみ)」 で設定したリソース名に修正してください。

「SID」 を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」 で設定した SID に修正してください。

「INAME」 を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」 で設定した ERS1 のインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」 を、ERS1 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間 (秒) に修正します。

「TIMEOUT」 はサンプルスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理 (例. サンプルスクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理) で使用する時間です。

そのため、サンプルスクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」 × 待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」 は、「TIMEOUT」 までの間、設定値 (秒) ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」 の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-ERS1-SAP-instance_NECK_21
set SID=NEC
set INAME=ERS21
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: ERS1 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager (内部バージョン 11.3x/12.0x の場合) や Cluster WebUI (内部バージョン 12.1x 以降の場合) のアラートを参照することにより確認可能です。

- フェイルオーバグループ : ERS2-Group

- スクリプトリソース : script-ERS2-SAP-instance_NECK_22

setting.bat の変数 「SID」 を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」 で設定した SID に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 インスタンス、ERS2 インスタンスの INO を並べたものに修正してください。区切り文字は半角空白としてください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS2 のインスタンス名に修正してください。

「EXCLUSIVE_GROUP」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「フェイルオーバグループの作成」で設定した、排他制御用フェイルオーバグループで共通のフェイルオーバグループ名に修正して下さい。

「APS」と同じノードで実行されている AS のインスタンス番号に修正してください。値が適切でない場合、ASCS-Group のフェイルオーバ後に sapcontrol -function GetSystemInstanceList の結果が不正になる可能性があります。

本書での例

```
set SID=NEC
set SAP_ERS_INO=21 22
set INAME=ERS22
set EXCLUSIVE_GROUP=Exclusive-Group
set APS=32
```

- スクリプトリソース : script-ERS2-SAP-service_NE_22

setting.bat の変数 「INSTANCE_RESOURCE_NAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS2 (Node#2) リソースの設定 (ENSA を利用する場合のみ)」で設定したリソース名に修正してください。

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS2 のインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」を、ERS2 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間(秒)に修正します。

「TIMEOUT」はサンプルスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理(例. サンプルスクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理)で使用する時間です。

そのため、サンプルスクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値(秒)ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-ERS2-SAP-instance_NE_22
```

```
set SID=NEC
set INAME=ERS22
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: ERS2 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）や Cluster WebUI（内部バージョン 12.1x 以降の場合）のアラートを参照することにより確認可能です。

サンプルスクリプトの使用方法（ENSA2 を利用する場合のみ）

- フェイルオーバグループ： ASCS-Group
 - スクリプトリソース： script-ASCS-SAP-instance_NECK_10

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS インスタンスの INO に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set SAP_ERS_INO=21
set INAME=ASCS10
```

-
- フェイルオーバグループ： ERS-Group
 - スクリプトリソース： script-check-ENSA2

check_ensa2.bat の<ASCS_GROUP>を ASCS 用フェイルオーバグループ名に、<ERS_GROUP>を ERS 用フェイルオーバグループ名に修正してください。

本書での例

ASCS-Group
ERS-Group

– スクリプトリソース : script-ERS-SAP-instance_NE_21

setting.bat の変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS インスタンスの INO に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS のインスタンス名に修正してください。

「APS」と同じノードで実行されている AS のインスタンス番号に修正してください。値が適切でない場合、ASCS-Group のフェイルオーバ後に sapcontrol -function GetSystemInstanceList の結果が不正になる可能性があります。

本書での例

```
set SID=NEC
set SAP_ERS_INO=21
set INAME=ERS21
set APS=31 32
```

– スクリプトリソース : script-ERS-SAP-service_NE_21

setting.bat の変数「INSTANCE_RESOURCE_NAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS リソースの設定 (ENSA2 を利用する場合)」で設定したリソース名に修正してください。

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS のインスタンス名に修正してください。

「TIMEOUT」を、ERS インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間(秒)に修正します。

「TIMEOUT」はサンプルスクリプト内の 1 回当たりの待ち合わせ処理(例. サンプルスクリプト内で実行している sapcontrol コマンドの待ち合わせ処理)で使用する時間です。

そのため、サンプルスクリプト内で待ち合わせ処理が複数回存在すると最大で「TIMEOUT」×待ち合わせ処理回数の時間待ち合わせることになります。

スクリプトリソースの [開始 タイムアウト]、[終了 タイムアウト] も考慮してください。

「DELAY」は、「TIMEOUT」までの間、設定値(秒)ごとに起動・停止したかを確認します。

「ASCS_INSTANCE_HOST_NAME」の設定は不要です。

本書での例

```
set INSTANCE_RESOURCE_NAME=script-ERS-SAP-instance_NEC_21
set SID=NEC
set INAME=ERS21
set TIMEOUT=600
set DELAY=5
set ASCS_INSTANCE_HOST_NAME=
```

注釈: ERS1 インスタンス用グループリソースの起動・停止に必要な時間は、DELAY を 1 に設定した状態で該当グループリソースの起動・停止を実行し、WebManager（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）や Cluster WebUI（内部バージョン 12.1x 以降の場合）のアラートを参照することにより確認可能です。

2.3.2 カスタム監視リソース

メディアに同梱されている以下のサンプルスクリプトをカスタムモニタに設定します。

ファイル名	用途
check_ensa2.bat	ENSA2 を使用する場合の ASCS/ERS 排他制御用
ers-mon-preaction.bat	ERS インスタンス監視の回復動作用サンプルスクリプト
genw-SAP-HostExec.bat	SapHostExec 監視用
genw-SAP-instance.bat	インスタンス監視用
genw-SAP-service.bat	インスタンスサービス監視用

WebManager（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）や Cluster WebUI（内部バージョン 12.1x 以降の場合）でスクリプト置換機能を利用して、各サンプルスクリプトをカスタム監視リソースに適用します。

詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

『リファレンスガイド』

「カスタム監視リソースを理解する」

WebManager（内部バージョン 11.3x/12.0x の場合）や Cluster WebUI（内部バージョン 12.1x 以降の場合）で回復スクリプト置換機能を利用して、ERS インスタンス監視の回復動作用サンプルスクリプトを ERS インスタンス監視リソースに適用します。

詳細については、以下のドキュメントをご覧ください。

内部バージョン 11.3x/12.0x の場合:

『リファレンスガイド』

「モニタリソースの設定を表示/変更する (モニタリソース共通)」

内部バージョン 12.1x 以降の場合:

『リファレンスガイド』

「モニタリソースのプロパティ」

各バージョンにおける変更点は以下のとおりです。

ファイル名	CLUSTERPRO 内部バージョン 11.3x/12.0x	CLUSTERPRO 内部バージョン 12.1x 以降
check_ensa2.bat	-	ENSA2 を使用する場合、ASCS 用と ERS 用のフェイルオーバグループが同一ノード上で起動している場合に監視異常とします。
ers-mon-preaction.bat	SAP NW のアプリケーションサーバとしての機能に影響を与えないため、以下の場合でも正常終了としています。 - SAP NetWeaver の仕様として、ASCS インスタンスのフェイルオーバ後にフェイルオーバノード上の ERS インスタンスは停止が必要。この ERS インスタンスの停止を検知後、回復動作として ASCS インスタンスのフェイルオーバ先とは異なる別ノード上の ERS インスタンスを起動する際に、起動可能な ERS インスタンスが見つからなかった場合や何らかの理由で起動に失敗した場合。	左記の場合のサンプルスクリプトの終了値を clp_shi_connector.conf の STRICT_RETVAL パラメータで指定します。『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「設定項目」も参照してください。
genw-SAP- HostExec.bat	SAP Host Agent のプロセスの異常終了を saphostexec コマンドの返却値で判定します。	SAP Host Agent のプロセスの異常終了を saphostexec コマンドの出力結果で判定します。検出精度が向上しています。

次のページに続く

表 2.60 – 前のページからの続き

ファイル名	CLUSTERPRO 内部バージョン 11.3x/12.0x	CLUSTERPRO 内部バージョン 12.1x 以降
genw-SAP-instance.bat	各インスタンスを構成するプロセスの状態を sapcontrol -function GetProcessList で確認し、その結果がすべて GREEN になっていない場合に監視異常とします。	各インスタンスを構成するプロセスの状態を sapcontrol -function GetProcessList で確認し、その結果がすべて GREEN になっていない場合もしくは GREEN または YELLOW になつてない場合に監視異常とします。 どの場合に監視異常とするかは clp_shi_connector.conf の YELLOW_AS_ERROR パラメータで指定します。『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「設定項目」も参照してください。

サンプルスクリプトの使用方法

- カスタム監視リソース : genw-ASCS-instance-ENQ

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS のインスタンス名に修正してください。

「PATH」について、本書は、S ドライブに設定していますが、構成に応じたドライブレターを設定してください。

「TARGET」は ENSA を利用する場合は enserver.EXE、ENSA2 を利用する場合は enq_server.EXE に設定してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ASCS10
set PATH=%PATH%;S:\usr\sap\%SID%\%INAME%\exe
set TARGET=enserver.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-ASCS-instance-MSG

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS のインスタンス名に修正してください。

「PATH」について、本書は、S ドライブに設定していますが、構成に応じたドライブレターを設定してください。

「TARGET」を msg_server.EXE に設定してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ASCS10
set PATH=%PATH%;S:\usr\sap\%SID%\%INAME%\exe
set TARGET=msg_server.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS1-instance (ENSA を利用する場合)

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 のインスタンス名に修正してください。

「TARGET」を enrepserver.EXE に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ERS21
set TARGET=enrepserver.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS2-instance (ENSA を利用する場合)

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS2 のインスタンス名に修正してください。

「TARGET」を enrepserver.EXE に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ERS22
set TARGET=enrepserver.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS-instance (ENSA2 を利用する場合)

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。
「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS のインスタンス名に修正してください。
「TARGET」を *enq_replicator.EXE* に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ERS21
set TARGET=enq_replicator.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-PAS-instance-DISP

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。
「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した PAS のインスタンス名に修正してください。
「TARGET」を *disp+work.EXE* に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=DVEBMGS31
set TARGET=disp+work.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-PAS-instance-IGS

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。
「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した PAS のインスタンス名に修正してください。
「TARGET」を *igswd.EXE* に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=DVEBMGS31
set TARGET=igswd.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-AAS-instance-DISP

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した SID に修正してください。
「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した AAS のインスタンス名に修正してください。
「TARGET」を *disp+work.EXE* に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=D32
set TARGET=disp+work.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-AAS-instance-IGS

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した SID に修正してください。
「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した AAS のインスタンス名に修正してください。
「TARGET」を *igswd.EXE* に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=D32
set TARGET=igswd.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-DA1-instance

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。
「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』-「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した DA1 のインスタンス名に修正してください。
「TARGET」を *jstart.EXE* に修正してください。

本書での例

```
set SID=DAA
set INAME=SMDA97
set TARGET=jstart.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-DA2-instance

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した DA2 のインスタンス名に修正してください。

「TARGET」を jstart.EXE に修正してください。

本書での例

```
set SID=DAA
set INAME=SMDA96
set TARGET=jstart.EXE
```

- カスタム監視リソース : genw-ASCS-service

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS のインスタンス名に修正してください。

「PATH」について、本書は、S ドライブに設定していますが、構成に応じたドライブレターを設定してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ASCS10
set PATH=%PATH%;S:\usr\sap\%SID%\%INAME%\exe
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS1-service (ENSA を利用する場合)

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ERS21
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS2-service (ENSA を利用する場合)

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS2 のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ERS22
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS-service (ENSA2 を利用する場合)

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=ERS21
```

- カスタム監視リソース : genw-PAS-service

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「PAS インスタンスのインストール (Node#1)」で設定した PAS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=DVEBMGS31
```

- カスタム監視リソース : genw-AAS-service

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「AAS インスタンスのインストール (Node#2)」で設定した AAS のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=NEC
set INAME=D32
```

- カスタム監視リソース : genw-DA1-service

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した DA1 のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=DAA
set INAME=SMDA97
```

- カスタム監視リソース : genw-DA2-service

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「INAME」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「DA インスタンスのインストール (Node#1 および Node#2)」で設定した DA2 のインスタンス名に修正してください。

本書での例

```
set SID=DAA
set INAME=SMDA96
```

- カスタム監視リソース : genw-hostexec1

- カスタム監視リソース : genw-hostexec2

SAPHOSTEXEC については、SAP NW 既定のパスのまま使用します。

- カスタム監視リソース : genw-check-ENSA2 (ENSA2 を利用する場合)

「check_ensa2.bat」の内容を genw.bat に貼付して、check_ensa2.bat の<ASCS_GROUP>を ASCS 用フェイルオーバグループ名に、<ERS_GROUP>を ERS 用フェイルオーバグループ名に修正してください。

本書での例

```
ASCS-Group  
ERS-Group
```

回復動作用サンプルスクリプトの使用方法（ENSA を利用する場合のみ）

ENSA を利用する場合は、以下で説明する回復動作用サンプルスクリプトの設定が必要です。

- カスタム監視リソース : genw-ERS1-instance

変数「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「SAP_ASCS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS インスタンスの INO に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 インスタンス、ERS2 インスタンスの INO を並べたものに修正してください。区切り文字は半角空白としてください。

本書での例

```
set SID=NEC  
set SAP_ASCS_INO=10  
set SAP_ERS_INO=21 22
```

- カスタム監視リソース : genw-ERS2-instance

「SID」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した SID に修正してください。

「SAP_ASCS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ASCS インスタンスをインストール (Node#1)」で設定した ASCS インスタンスの INO に修正してください。

「SAP_ERS_INO」を『SAP NetWeaver システム構築ガイド』 - 「ERS インスタンスのインストール (Node#1 / Node#2)」で設定した ERS1 インスタンス、ERS2 インスタンスの INO を並べたものに修正してください。区切り文字は半角空白としてください。

本書での例

```
set SID=NEC  
set SAP_ASCS_INO=10  
set SAP_ERS_INO=21 22
```

第3章

免責・法的通知

3.1 免責事項

- ・本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- ・日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいません。また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。
- ・本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

3.2 商標情報

- CLUSTERPRO® は、日本電気株式会社の登録商標です。
- EXPRESSCLUSTER® は、日本電気株式会社の登録商標です。
- SAP NetWeaver、および本文書に記載されたその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。
- Microsoft、Windows、Azure、Azure DNS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- 本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

第4章

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2018/04/17	新規作成
2	2018/08/27	誤記訂正 <ul style="list-style-type: none"> 2.3.1. サンプルスクリプトの使用方法 2.3.2. サンプルスクリプトの使用方法
3	2019/04/10	ENSA2 の構成を追加 <ul style="list-style-type: none"> 2.2.1. <i>CLUSTERPRO</i> 設定例 2.3. サンプルスクリプト 構成における必要なサンプルスクリプトを追加 <ul style="list-style-type: none"> 2.3. サンプルスクリプト サンプルスクリプトについて各バージョンにおける変更点を追加 <ul style="list-style-type: none"> 2.3.1. スクリプトリソース 2.3.2. カスタム監視リソース 「TIMEOUT」の説明を追加 <ul style="list-style-type: none"> 2.3.1. サンプルスクリプトの使用方法

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

版数	改版日付	内容
4	2020/04/10	<p>「APS」の説明を追加</p> <p>2.3.1. サンプルスクリプトの使用方法</p> <p>用語を追加</p> <p>2.1. SAP NW 環境設定例</p> <p>設定必要なアクセス許可を追加</p> <p>2.1.3. OS の設定例</p>
5	2020/05/13	<p>SAP NOTE #2850906 を追加</p> <p>1.6.1. SAP NetWeaver ドキュメント</p>
6	2020/07/10	<p>誤記訂正 (「APS」の説明を script-PAS-SAP-instance_NECA_31, script-AAS-SAP-instance_NECA_32 から script-ERS1-SAP-instance_NECA_21, script-ERS2-SAP-instance_NECA_22 へ移動)</p> <p>2.3.1. サンプルスクリプトの使用方法</p>
7	2021/04/09	内部バージョン 12.30 に対応
8	2022/04/08	内部バージョン 13.00 に対応

© Copyright NEC Corporation 2018. All rights reserved.